

みつぎ便り

121号
10月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年10月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

センニチコウ「千日紅」

バス通りから高速下の横断歩道を渡り、見次公園の入り口から池を望むと左側の丸いコンクリートの花壇の先に、紅紫の丸い花をつけたセンニチコウが小さく群れて咲いています。

原産地は熱帯アメリカ地方で、十七世紀頃に日本に渡来したそうです。春に植えて夏から秋にかけて花を楽しませ、冬には枯れてしまう一年草です。

センニチコウ「千日紅、千日草」の名前の由来は、夏から秋にかけて長い間、花の紅色が色あせずに咲き続ける所にあるそうです。また、乾燥させドライフラワーにすると三年以上、すなわ



ち千日以上花の色があせないからと言う説もあります。

花言葉は「終わりのない友情」「色あせない愛」「不朽・不死・不滅」など縁起の良い言葉が次々と並んでいます。ちなみに八月二六日の誕生花だそうです。誕生日の皆様はおめでとうございます。
(安)

ニラ

どなたもご存知の野菜の『ニラ』が、今、見次公園の機械小屋左側の花壇で白いレースのような小花をいっぱい咲かせています。皆さん、お気づきでしょうか。まだ蒸し暑さの残るこの頃に、人々の目を涼やかにしてくれています。ニラは、葉も花も食用になり、栄養豊富で体力増強にも役立ち、料理法も簡単で私たちの暮らしにとっても役に立ってくれています。

ニラ、という名は『においきらい』からニラとなったとか、『美味』が『みら』となりニラになった等、諸説あります。モンゴル原産といわれていますが、日本での歴史は古く、古事記や万葉集にもニラが出てきています。



庭や畑の片隅に一度植えておけば、手をかけなくても、毎年何回も収穫でき懒人(らいじん)↓怠け者のこと)でも育てられることから、懒人草

という別名もあるそうです。でも、見次公園で咲いているニラは、臭いも少なく、葉も固そうです。ゆめゆめ試してみようなどとお思いにならず、花だけを觀賞なさって下さいね。

なお、葉がニラによく似た「花ニラ」は、六弁の白っぽい清楚な花をつけていますが、毒性があるということですので、どちらのニラも、舌で味わうのではなく、目で楽しむだけにしておいてください。
(静)